

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202254		
法人名	株式会社イッセイ		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	静岡県清水区西久保1丁目13-26		
自己評価作成日	平成 29年11月 8 日	評価結果市町村受理日	平成 30年 1月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 29年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来年2月で12年になり2回目の事業所更新になります。同時に長きにわたり入居されている利用者様だけでなく職員も高齢化してきています。時は、ゆっくりと流れ共に寄り添うような時間が流れています。業務に流されず利用者様のペースを大事にお世話させていただいています。大半の利用者様が此処で最期を迎えられます。最期まで人として過ごせるよう尊厳、その人らしさの追求は終わりのない課題です。毎年2回のバザーでは、地域の様々な方が出店して下さるようになり地域との交流も欠かさず開かれた施設運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人として最期まで暮す処と捉え、ゆっくりと寄り添って行く姿勢で自然なケアを目指しています。看取りへの過程では、協力医からの信頼が大きく、家族への支えにもなっています。介護者の姿が利用者に映し出されている事を、心に留めながら接しています。また、ホーム主催の年2回のバザーで、利用者協力の手作り品の販売や、ホームのガレージの提供や、子供会での支援をしており、近隣住民と濃厚なふれあいをしています。地域からの拠り所とされており、良好な関係が確立しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	様々に地域との交流を実践することが理念につながっている。	利用者様が最後までまで人として生きぬくことを理念として玄関に掲げ共有している。尊厳を守り、差別をしない、自然体で生きるホームである様に地域との交流を図り実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	バザー、地域運営推進会議、S形デイサービスへの参加、地の神様である神社の総代としての奉仕、地域子供会活動への協力を行い地域密着型を実践している。	事業所の祭りを開催し住民によるバザーを協働しふれあいの機会を設けている。地域の役割として神社総代や自治会の班長もこなしている。子供会の入浴支援、体験や清水特別支援学校生の受け入れと多彩な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの近くに住む孤立した認知症高齢者を民生員と情報を共有しながら見守り支援を続けてきていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	古くから地元に住む利用者様もいて面会を兼ねて地域運営推進会議への参加もある。その際にご家族に聞けない話も出ることがあり利用者様をよりよく知る手立てにもなっている。	開催は2ヶ月に1回。民生委員、利用者の知人、包括に参加いただいている。参加者から情報を頂きより利用者を理解することに繋がっている。会議の中から犬猫の糞の看板設置や参加者の意向で実現した刺又は、防犯訓練に使っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来所が月1回あり事業所や利用者様の状況を伝えたり来所日の感想を伺うようにしている。	市職員の来所による連携を目指しているがその方法を模索している、会議などの出席依頼をして居ない。提出物などは郵送やメールにて報告している。	市担当者へ出席を働きかけるような工夫を期待します。年3回の医療福祉介護の連絡会などの機会を捉えたり、運営推進会議・地域交流会の案内を、前回の記録を届けるなどの機会を作るように期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止は周知されている。夕刻、車いすを自走し出してしまう利用者様に咄嗟に玄関を施錠してしまったことはある。危険行為も予想され一方的に職員を非難できない難しい判断(一時拘束?)であった。	身体拘束の宣言を掲げている。日中の施錠は無く夕方6時頃まで開錠している。無断で外出してしまう車椅子の利用者がおり、自走による走り出しの危険から施錠した時機も有ったが、ケアの見直しを行い今は落ち着いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、出前講座で学んでいる。虐待については、温床を生まないようストレスを貯めないような職場環境を常に見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を利用している利用者様もいる。利用するまでの理由や経過は、都度、職員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元保証人である姪っ子さんが、突然契約の締結を申し出たケースがある。利用者様が作話・妄想が強く十分な説明を行ってきたつもりだが、認知症への理解ができず退所し姪っ子さんの自宅近くの施設に入所させることで彼女のストレスが一時的にでも解消されると判断した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	作話や妄想のひどい利用者様が「ここで食事をもらっていない」とご家族に度々訴えられた。ホーム側にも真意を訪ねてくるのが重なり月ごとに出された食事メニューのコピーを送付することにした。	家族の来所時に聞きとりをし、状況の説明を行っている。利用者の訴えで、家族から問われた「何を食べている？」に答えて食されたメニューを知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の賞与支給時に代表者、管理者が面接を行いフランクに話せるような機会を設けている。	常勤者が年2回個別面接している。月1回全員参加のミーティングでは自由に意見を出してもらい聞きとっている。またシフトについての意見などは普段から気軽に話せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的に職員が働いてくださることが運営を続けていけることだと感謝の意を表すようにしている。短所を受け入れ長所に変えられるよう不満を満足に変えられるよう管理者自身が努力しているところである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて仕事で行けるようにしている。資格合格に向けて再トライを繰り返す職員へのモチベーションを挙げられるよう研修の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日常的に同業者であるグループホームとの交流はない。認知症リーダー研修で実習場所として2名の実習生が来所された際、当ホームの職員と、交流できていた。今後も実習の提供場所として依頼があれば受け入れていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入居希望者やキーパーソンと面談したり家庭を訪問し話し合いの機会を持つようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談、入所前の面談、契約時に利用者様・ご家族の話に耳を傾け不安や要望を聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談でアセスメントし情報共有を行い利用者様を受け入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人個人の意欲、残存能力を考慮したうえで生活の中で必要な仕事(食材切り、皮むき、食器の拭きあげ、洗濯タタミ等)を手助けしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が途絶えないよう内科以外の病院受診は、ご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様に届いた手紙の返事の代筆、なじみの床屋への外出が、ご家族支援の下で行われている。	ふたりの人が、それぞれ馴染みの床屋に継続して通えるよう家族と共に支援している。親しい民生委員、総代、ボランティア、知人の来所で、馴染みの人・場所と繋がりが途絶えない様に支援してる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでのテーブル席の配置に配慮し利用者様どおしが会話できるようにしている。話しかけの難しい利用者様も多いがラジオ体操やレクリエーションを皆でやることで孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	10年近く前に退所された利用者様のご家族が年1回は、訪問していただき近況報告等、当時入所中の話を懐かしくされて行かれる。又、現在リピーターも入居されているので関係している期間が長い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話・行動で利用者様の意向に気づき職員間で情報共有しケアをしている。嗜好品を必要とする利用者様には常に充足するなど柔軟に対応している。	日々の暮らしの中で職員が気づき把握する。家族からの情報も検討し、庭の花植えや水かけなどで生活に張りが出てきた利用者がある。嗜好品の対応も柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に時間をかけてかけて面談し生活歴を把握するようにしている。ただし一人暮らしの場合は、入所してから日々のかかわりから発見することもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所当初は、できる部分、介助の度合い、過ごし方等業務日誌への記入、各勤務交代時に引き継ぎやミーティングを行い職員、全員把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時やご家族との話し合いの機会を設けて現在の状況を話したり希望・不安等を傾聴するように心がけている。日々の引継ぎや定例になっている月1回のミーティングでは、職員から意見を求めている。	職員から目標が提案されて本人、家族、関係者を交えて話し合いをし介護計画が作成されている。計画書は職員全員の確認をへて共有される。日々の引継ぎやミーティングで意見を聞き、職員全員の確認がなされ、より具体的な計画書になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルサイン、食事量、排泄や入浴の実践状況等を個別に記入している。個別の介護記録に状況を記入、特記事項も設け変化のあった状況を記入する欄もある。業務日誌には変化のある利用者様の状況を記入し引継ぎ、閲覧した職員はサインをする欄もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感情が不安定な利用者様に対し音楽を好むので個別に同事業所のデイサービスに出向き週2回音楽療法に参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のS型デイサービスに出掛けたり防災訓練への参加で地域施設に暮らす高齢者を地域住民に認識していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢者は、必ずと言って良いほど病気を抱えており24時間365日対応してもらえる往診医に変更をお願いしている。利用者様、ご家族に同意は得ている。歯医者、皮膚科、精神科、眼科は、ご家族や利用者様の希望する病院に受診していただいている。	内科受診は入所後、事業所の契約往診医に変更をお願いし利用者家族から了承を得ている。そのため、緊急の場合は病院との連携が取れているので安心されている。歯科・眼科は希望する医院への受診を家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より24時間の生活面、入浴時の皮膚観察、バイタルチェック等で観察事項の指導を受け異常時は看護職の管理者に報告体制がある。都度、的確にケアの指導を受け実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医、薬剤師、看護職が主体となり医療管理が行われ骨折以外に入院歴がない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時よりご家族と話し合っている。重度化の兆しがある利用者様は早くからご家族と詰めた話し合いを頻回に行い書面で同意をいただいている。又、往診医からは、看取りの同意書をとるようになってきている。	重度化に伴う、体調変化や、食事・水分摂取量の変化、生活動作の変化について家族と頻回に話し合いを行ない、職員・往診医と家族の良い信頼関係が築けている。今年に入り3人の看取りをされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で利用者様の体調変化時は安静にしバイタルサイン測定、観察事項を説明し管理者への報告を義務付けしている。又、転倒事故時の対応についても説明、実践されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は、夜間を想定しなるべく多くの職員が参加できるよう心がけている。又、地域の防災訓練に参加し地域との連携を図るようにしている。	夜間の想定で6・7月の雨の時、行っている。12月には自主防災訓練を地域と合わせて行い、地域に1人利用者が参加し、事業所を知ってもらう機会になっている。交流会議でお互いの協力関係を確認している。地盤が良いので、地震の際は施設待機予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	梨用者様が居室やフロアーを自由に行き来できるようにしている。フロアー内は利用者様の行動を静観している。食事・水分補給は、決められた時間で丁寧な声掛けを心掛けている。	静かで穏やかな言葉遣いで職員は接しており、トランプや新聞読みでもその対応が感じられた。トイレ誘導が周りに気づかれないうちに行われている。ベテラン職員が長い間に培ったケアを若い職員に身をもって伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で利用者様の希望、思いを感じ取り職員間で情報共有し利用者様に提案し反応をみることでケアに生かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前に利用者様の暮らしぶりを情報収集し職員間で共有、理解するようにしている。イベント・行事参加は、利用者様の意思を尊重して参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の思いや利用者様自身のおしゃれへの思いを尊重、定期的に散髪や髪染めを行っている。服装は、天候や気温を配慮して介助して着替える利用者もいますが、ご自分で選ばれて着替えてこられる利用者様もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが、楽しく、おいしく召し上がっていただけよう食材の大きさを工夫している。できる利用者様には職員と一緒に食材の皮むき、カットやかたづけをお願いしている。	食事形態は一人ひとり食べやすくされている。静かで落ち着いた雰囲気ですり、食器・お盆を拭くなどの作業を職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調変化で固形物を口にできない利用者様にはメイバランス・カロリーメイト・ゼリー等食べやすいものを選んで提供している。体調の不安定な利用者様は毎日水分量を測定し水分が摂れるものを補水している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様は、毎食後各個人の口腔内の状況にあったケアを行っている。歯ブラシ・歯磨きを使用する。歯磨きティッシュ、洗口液を使われている利用者様もいる。義歯を使われている利用者様は夜間専用容器に収納、定期的にポリドントで消毒している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの誘導は、尿意のない利用者様や車椅子対応の利用者様も排泄チェック表で決められた時間で行っている。しかし排泄の失敗もあるので柔軟に対応するようにしている。	排泄チェック表を活用してスムーズに誘導している。オムツから布パンツになられた人もいる。本人が自立出来ていると思っている方は、失敗がなくてもトイレ誘導を強制せず、トイレに近い部屋への対応で改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、確保できない場合の補水法を心得ている。繊維の多いものや手作りの乳製品も提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後3時以降と決めている。曜日は職員側で概ね決めています。利用者様の当日の体調や希望により変更することもあります。入浴介助を拒否する利用者様はドアの外から見守りしている。	週3日、15時から17時30分の間で入浴されている。ひとり入浴を望まれている方はドア越しに見守っており、楽しんで入浴できているようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間は、大体決まっているが起床時間は、利用者様任せである。日中は、利用者様が自由に動けるよう行動制限や言葉の拘束はしないようにしている。夜間は、掛物や寝間着を配慮し寒暖差に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利尿剤や抗凝固材の内服理由・副作用、緩下剤の内服状況は、説明を繰り返している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生日には、ケーキで誕生会をおこなったり季節柄ハロウィーンでは仮装してスナップ写真に納まっている。使えそうもないと思われる利用者様が、包丁を使いじゃがいもの皮むきをされている姿をみかけることがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状況もまちまちなので全員ではないが、ご家族とともにお墓参り、選挙の投票、外食に行かれている方もいらっしゃる。	事業所の周りにショッピング店があるが、買い物に行きたがらず職員に頼ってしまう場合も少なくない。家族と一緒に外出をしてもらうよう促している。お花見、港祭り、民謡祭りなどには皆で出かける様に計画実行されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者様もいらして買物を依頼されたりする。利用者様の中には、外に出かけていかれた際に嗜好品を買って求めている。いらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている利用者様が、いらっしゃるが自ら掛けることは難しいのでご家族の希望で持たれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは平屋建てで階上からの物音はない。天窗もあり光のささない居室はない。自由に動ける空間に、手すりが備え付けられている。バリアフリー構造であるため車いすで自走されている利用者様もいらっしゃる。	玄関にサンタクロース、居間居室入口はクリスマスツリーが飾られている。天窗と間接照明の電灯と、中庭の窓から穏やかな光が居間全体を包んでいる。床暖房が施されており、寒さ対策は万全である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットの道路側に面した窓下に2人かけのソファが置かれている。時々、利用者様が1人でくつろいでいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の意志を持つ利用者様はご家族と相談し冷蔵庫、仏壇、テレビ等を持ち込まれている	家族と相談して携帯電話を利用している方、温かな部屋では半袖の方もいる。ベットは木製とパイプ製を利用者の状況に合わせて使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室の場所がわかるように入り口に表札を置いたりテーブル席から立ちあがり前に進めない利用者様には声掛けを行い行きたい場所に誘導している。		